



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 株式会社インバウンドテック 上場取引所 東
コード番号 7031 URL <https://www.inboundtech.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 東間 大
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO 専務執行役員 管理本部長 (氏名) 金子 将之 TEL 03-6274-8400
半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 -
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	1,358	△20.8	15	△90.9	13	△92.1	0	△99.9
2024年3月期中間期	1,715	7.6	170	△30.4	167	△31.0	107	△33.5

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 2百万円 (△98.0%) 2024年3月期中間期 106百万円 (△37.1%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	0.04	0.04
2024年3月期中間期	41.59	39.55

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	3,707	2,693	57.1
2024年3月期	3,777	2,682	55.8

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 2,115百万円 2024年3月期 2,108百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,800	14.5	335	1.4	330	1.6	205	△1.6	78.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	2,492,275株	2024年3月期	2,616,600株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	20,800株	2024年3月期	150,162株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	2,472,947株	2024年3月期中間期	2,590,908株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、第2四半期（中間期）決算短信（添付資料）3ページ「（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、マルチリンガルCRM事業における日本語案件につきましては、民間企業から受託する案件数は安定的な増加が続いておりますが、案件単位での売上・利益の額が大きい官公庁等の入札業務については、競合の参入増により係る人件費の高騰に加え、公示が一巡したタイミングであることから厳しい環境が続いております。一方多言語分野に係る業務の受注及び入電数についてはインバウンド需要増に伴い順調に増加傾向が続いており、今後も安定した成長が見込まれる状況です。しかしながら、日本語の入札業務の剥落分をカバーできるまでには今しばらく時間を要するものと考えられます。また、事業の新たな柱を目指して前期より医師会及び健康保険組合の帳票作成代行等のヘルスケアBPO事業に取り組んでおりますが、当該事業については成長途上であり、人材の採用活動費用及び人件費並びに事業拠点の整備に係る費用などについて先行支出が続いているものの、収益化が視野に入りつつある状況となっております。

セールスアウトソーシング事業においては、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗し、また、もう一つの主力業務であるソフトバンクモバイルにおける契約勧奨業務についても計画に近い形で推移しておりますが、今期に計画していた新規案件の立ち上がり時間に時間を要しており、セグメント売上高については計画を下回ったものの、内製化や業務効率見直しなどによるコストコントロールによって利益については計画に近い形で推移しております。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は前年同期と比べ357,596千円減少し1,358,112千円、営業利益は前年同期と比べ155,273千円減少し15,598千円、経常利益は前年同期と比べ154,530千円減少し13,219千円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期と比べ107,663千円減少し91千円となりました。

	前中間連結会計期間 (千円)	当中間連結会計期間 (千円)
売上高	1,715,709	1,358,112
営業利益	170,871	15,598
経常利益	167,750	13,219
親会社株主に帰属する 中間純利益	107,755	91

セグメント別の状況は以下のとおりであります。また、各事業分野のセグメント利益は、全社管理部門費用210,666千円を含まない額であります。

・マルチリンガルCRM事業の概況

マルチリンガルCRM事業におきましては、日本語を含む13カ国語を活用し、外国人と日本人のコミュニケーション問題を解決する多言語・通訳ソリューションを24時間365日体制で提供しております。

コロナ禍以降長らく低迷していた多言語によるサポートニーズですが、訪日外国人観光客の増加に伴い、当中間連結会計期間については、入電数や新規案件の引き合い増など、インバウンド関連は回復基調が継続しております。しかしながら、BtoB市場におけるインバウンド関連の本格的な需要増及び業績への具体的な寄与につきましては途上であると認識しております。また、前期まで大きな需要の柱となっていた新型コロナウイルス関連のスポット案件のシュリンクに伴い、医師会及び健康保険組合の帳票作成代行等のヘルスケアBPO事業に取り組んでおりますが、当該事業については成長途上であり、人材の採用活動費用及び人件費並びに事業拠点の整備に係る費用などについて先行支出が続いているものの、収益化が視野に入りつつある状況となっており、案件数及び売上についても増加傾向にあることから、事業の更なる加速を目指してまいります。また、日本語案件である官公庁等の入札業務については、競合の参入増や係る人件費の高騰に加え、公示が一巡したタイミングであることから厳しい環境が続いておりますが、大手との連携や民間企業へのアプローチ増などのリカバリプランを推進しております。

以上の結果、マルチリンガルCRM事業全体では、売上高は923,583千円(前年同期比25.4%減)、セグメント利益は155,473千円(同47.3%減)となりました。

	前中間連結会計期間 (千円)	当中間連結会計期間 (千円)
売上高	1,238,529	923,583
セグメント利益	295,094	155,473

・セールスアウトソーシング事業の概況

セールスアウトソーシング事業では、主に当社がクライアント企業に代わって見込みユーザーに対してインサイドセールス等を行っております。当中間連結会計期間については、主力業務であります訪問による東京電力グループの顧客向け営業業務が計画に近い形で進捗し、また、もう一つの主力業務であるソフトバンクモバイルにおける契約勧奨業務についても計画に近い形で推移しておりますが、今期に計画していた新規案件の立ち上がりに時間を要しており、セグメント売上高については計画を下回ったものの、営業スタッフの内製化や業務効率見直しなどによるコストコントロールによって利益については計画に近い形で推移しております。

以上の結果、セールスアウトソーシング事業全体では、売上高は438,995千円(前年同期比8.2%減)、セグメント利益は70,791千円(前年同期比13.3%減)となりました。

	前中間連結会計期間 (千円)	当中間連結会計期間 (千円)
売上高	477,991	438,995
セグメント利益	81,622	70,791

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当中間連結会計期間末における総資産は現金及び預金、売掛金などが減少した一方、その他資産の増加などにより、前連結会計年度末に比べ70,539千円減少し3,707,326千円となりました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ74,063千円減少し2,208,394千円、固定資産は前連結会計年度末に比べ3,524千円増加し1,498,932千円となりました。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は短期借入金が増加した一方、買掛金及び長期借入金などが減少したことにより前連結会計年度末に比べ81,694千円減少し1,013,538千円となりました。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は自己株式の消却などにより前連結会計年度末に比べ11,154千円増加し2,693,787千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物は前連結会計年度末に比べ153,622千円減少し、現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は1,547,912千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、18,262千円の収入で、税金等調整前中間純利益の減少及び運転資本の増減などにより前年同期に比べ58,906千円の収入減少となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、100,547千円の支出で、固定資産の取得及び敷金及び保証金の差入などによるものです。前年同期に比べ22,123千円の支出増加となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、71,337千円の支出で、短期借入による収入及び長期借入金の返済並びに自己株式の取得及び自己株式取得のための預託金増加などによるものです。前年同期に比べ130,038千円の支出減少となりました。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績につきましては、2024年5月14日及び2024年5月27日(訂正後)2024年5月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。今後、業績予想の修正の必要性が生じた場合は速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,701,535	1,547,912
売掛金	535,430	524,568
その他	45,822	136,152
貸倒引当金	△330	△240
流動資産合計	2,282,457	2,208,394
固定資産		
有形固定資産	143,090	135,870
無形固定資産		
のれん	633,955	588,970
顧客関連資産	317,750	297,250
その他	200,281	268,626
無形固定資産合計	1,151,987	1,154,846
投資その他の資産	200,330	208,216
固定資産合計	1,495,408	1,498,932
資産合計	3,777,866	3,707,326
負債の部		
流動負債		
買掛金	132,890	82,968
短期借入金	300,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	144,000	144,000
未払法人税等	44,529	18,082
賞与引当金	1,800	760
リース債務	—	1,516
その他	218,986	177,553
流動負債合計	842,206	824,881
固定負債		
長期借入金	252,000	180,000
資産除去債務	1,026	1,031
リース債務	—	7,625
固定負債合計	253,026	188,657
負債合計	1,095,233	1,013,538
純資産の部		
株主資本		
資本金	547,696	548,024
資本剰余金	582,784	536,449
利益剰余金	1,168,121	1,050,164
自己株式	△189,710	△18,669
株主資本合計	2,108,891	2,115,968
新株予約権	19,407	21,466
非支配株主持分	554,333	556,352
純資産合計	2,682,632	2,693,787
負債純資産合計	3,777,866	3,707,326

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	1,715,709	1,358,112
売上原価	1,272,197	1,056,704
売上総利益	443,512	301,408
販売費及び一般管理費	272,640	285,810
営業利益	170,871	15,598
営業外収益		
受取利息	9	172
還付加算金	34	8
保証金精算益	—	140
その他	4	12
営業外収益合計	48	332
営業外費用		
支払利息	2,083	2,547
支払手数料	1,087	163
営業外費用合計	3,170	2,710
経常利益	167,750	13,219
特別利益		
自己新株予約権消却益	—	837
特別利益合計	—	837
特別損失		
固定資産除却損	290	—
特別損失合計	290	—
税金等調整前中間純利益	167,459	14,056
法人税、住民税及び事業税	63,072	6,414
法人税等調整額	△2,488	5,532
法人税等合計	60,584	11,946
中間純利益	106,875	2,110
非支配株主に帰属する中間純利益又は非支配株主に 帰属する中間純損失(△)	△879	2,018
親会社株主に帰属する中間純利益	107,755	91

(中間連結包括利益計算書)

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	106,875	2,110
中間包括利益	106,875	2,110
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	107,755	91
非支配株主に係る中間包括利益	△879	2,018

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	167,459	14,056
減価償却費	29,609	49,145
顧客関連資産償却額	20,499	20,499
のれん償却額	44,538	44,985
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△52	△90
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,074	△1,040
受取利息及び受取配当金	△9	△172
支払利息	2,083	2,547
支払手数料	1,087	163
売上債権の増減額(△は増加)	40,606	10,861
仕入債務の増減額(△は減少)	△75,353	△49,922
未払金の増減額(△は減少)	24,398	△12,438
その他	△91,867	△24,715
小計	161,924	53,881
利息及び配当金の受取額	9	172
利息の支払額	△1,911	△2,925
法人税等の支払額	△83,671	△33,650
法人税等の還付額	817	784
営業活動によるキャッシュ・フロー	77,169	18,262
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,329	△12,316
無形固定資産の取得による支出	△29,621	△86,187
敷金及び保証金の差入による支出	△43,770	△2,302
敷金及び保証金の回収による収入	1,297	258
投資活動によるキャッシュ・フロー	△78,423	△100,547
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△72,000	△72,000
自己株式の取得による支出	△130,021	△18,833
自己株式取得のための預託金の増減額(△は増加)	—	△81,150
新株予約権の行使による株式の発行による収入	646	646
財務活動によるキャッシュ・フロー	△201,375	△71,337
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△202,630	△153,622
現金及び現金同等物の期首残高	2,044,597	1,701,535
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,841,967	1,547,912

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年8月28日開催の取締役会決議に基づき、自己株式20,800株の取得及び2024年9月30日付にて自己株式126,125株の消却を行いました。この結果、当中間連結会計期間において自己株式が171,041千円減少し、当中間連結会計期間末において自己株式が18,669千円となっております。

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。

これらによる中間連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,237,717	477,991	1,715,709	—	1,715,709
セグメント間の内部売上高 又は振替高	811	—	811	△811	—
計	1,238,529	477,991	1,716,521	△811	1,715,709
セグメント利益	295,094	81,622	376,717	△205,845	170,871

(注) 1. セグメント利益の調整額△205,845千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	マルチリンガル CRM事業	セールスアウト ソーシング事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	919,117	438,995	1,358,112	—	1,358,112
セグメント間の内部売上高 又は振替高	4,465	—	4,465	△4,465	—
計	923,583	438,995	1,362,578	△4,465	1,358,112
セグメント利益	155,473	70,791	226,265	△210,666	15,598

(注) 1. セグメント利益の調整額△210,666千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。